

令和元年度第2回稲毛区支え合いのまち推進協議会 議事要旨

1 日時

令和元年11月28日(木) 午後1時30分～3時00分

2 場所

稲毛保健福祉センター 3階 大会議室

3 出席者

(1) 委員 飯田委員長、鈴木副委員長、安西委員、伊東委員、岩上委員、岡野委員、岡山委員、工藤委員、佐久間委員、本間委員、布川委員、長谷川委員、早川委員、別所委員、眞智委員、松川委員、三石委員、宮崎委員、森脇委員
※26名中 20名が出席

(2) 事務局 大塚稲毛保健福祉センター所長
稲毛区地域振興課：薬師神くらし安心室長
地域福祉課：小林地域福祉班主査、畠山主任主事
社会福祉協議会稲毛区事務所：中山所長、鈴木副所長、平木主任主事
稲毛区高齢障害支援課：藤代課長補佐、黒木高齢支援班主査

4 会議の概要

(1) 稲毛区の地域福祉にかかる障害者の視点について

委員及び千葉市身体障害者連合会事務局から、資料により聴覚障害及び難聴者(補聴器使用)とのコミュニケーション、ヒアリンググループ利用時、会議時の要約筆記利用時の配慮について説明があった。また、耳マークの活用、快適で安全な生活環境の整備について、説明があった。なお、会議進行時にマイクを使うこと、ゆっくり話すこと等の配慮をすることについて改めて要望があり、事務局・委員ともに了承した。

(2) 稲毛区の地域福祉にかかる事例等について

事務局から資料により、いわゆるごみ屋敷という状況になった世帯に対し、あんしんケアセンター専門職、社会福祉法人千葉市社会福祉協議会稲毛区事務所のコミュニティソーシャルワーカー(CSW)、地域の民生委員とともに、緊急避難的に片づけを行った事例について報告した。

主な質疑応答は以下のとおり。

<質疑応答>

布川委員	高齢者へのごみ出し支援は民生委員や社協でやってくれるということか
------	----------------------------------

事務局	そういうことではない。地域の中で議論していただき、よりよいかたちで支援につなげていくのが大事である。
飯田委員	紹介があった事例について、社協地区部会が出てきていない。
事務局	今回の事例に関しては上記のような内容となっている。もちろん、地域の中で地区部会は大切な役割を担っていただいている。
鈴木委員	地域の中で話し合う場として、地域運営委員会についても活用してもらいたい。

(3) 稲毛区支え合いのまち推進計画の令和元年度の進捗状況について

事務局から資料によりおおむね順調に進捗していると報告があった。

<質疑応答>

布川委員	避難訓練には私も参加したが、皆さん参加しているのか。
本間委員	私の地域では避難訓練は盛大に開催しているし、他の地域でも開催している。また、先に質疑があったが、ごみ出しの支援について行っている地域もある。
事務局	避難訓練については、ほとんどの方が参加されていると社協でも認識している。

(4) 支え合いのまち稲毛（稲毛区推進協だより）の発行について

事務局から資料により説明があり、多少の表現の修正を行ったうえで12月1日発行とすることで、了承を得た。

<質疑応答>

布川委員	災害時には、障害者に停電などの情報が届かない。雷が落ちたときなど、停電しているようであるが、こちらには伝わってこない。
事務局	停電の詳細については、東京電力に確認するしかない。
岩上委員	ニードとはどういう意味なのか。
事務局	一般的にはニーズ、要望ということである。ただ、一般的にはなじみのうすい表現ということもあるので、適切な表現に改めたい。
眞智委員	対応不可とはどういうことなのか。
事務局	屋根の上での高所作業などについては対応できなかったということである。

(5) 次期地域福祉計画について

事務局から資料により説明があった。

<質疑応答>

工藤委員	多機関の協働とはどういう意味か。
事務局	あんしんケアセンターなど、さまざまな専門相談機関との協働ということである。
眞智委員	計画期間を6年間にするのは、どういうことなのか。
事務局	さまざまな団体などとの意見交換を経て、3年では短いのではないかという意見があり、6年としている。また、高齢・障害関係の計画期間が3年であることも考慮した。

(6) その他

前回の支え合いのまち推進協議会で質疑があった「ドライブサロン」における保険補償の内容については、使用車両が加入している保険が適用となると事務局から説明があった。

<質疑応答>

松川委員	今回、推進協だよりで災害の関係を取り上げていたが、参考までに避難所（公民館と学校体育館）のトイレの洋式化の状況について教えてほしい。
事務局	次回までに確認して報告する。
鈴木委員	学校トイレの洋式化のほか、マンホールトイレも整備している。

次回の開催は、来年3月に予定していることを説明した。